杏園閒筆

巻二

特別
15
1415
2

門 15
號 1415
卷 2

早稲田大学図書館
昭和25.11.10

杏園詩集卷之二

東坡壬戌三回遊赤壁　神戸侯書画　武家大宇納言　螺鈿劍

虎豹制禁　尾鞘事　逆頭籠

蒙古合戦吉文香二通　山之観音腰元白骨　孝經の行数四五条

匹田儀安尼寺坊十三全　浄土寺宗論寺　羽生村累女

上林竹菴　本願寺門記　修ゝ寺堂記

ム三輩行　桂女　長岡友平

奉の代　林宗行　梁如石脈

林宗行分　如来元

みちの庭に雪のつりるけの初冬　雪の中の梅

井家行　春深き尾花　沈度連名　江州の手書

小曲　宇壮寥寥書第　貝原氏書

雨題名行　雄壁　四月七日

三経冊　春雨　り春物　玄仙寺

思海上人　枯竹生竹述　梅生枯松

以春和尚　鐘沈水底　前載前水　犬行

ナゴラン　清田青家　奇病

杏園閑筆巻之二

○古文真宝抄

巻首ニ韓子云建仁常庵和尚之古文真宝八唐本也此本ニハ古文真宝彙注釋大全巻之一ト下ニ校勘人京兆劉剡音校衡陽廖筆後学黄堅編集ト アルホトニ無疑乎但先輩不見此本トヤ思ヒ韓ヲ清韓長老ヲ又ヲ中ヲ瓢詔ヒ

韓子

前赤壁賦　凡赤壁ト云ヘル五アリ周瑜ガ曹公ヲ破ルハ江夏ノ赤壁ナリ東坡ガ賦ヒシルハ黄州ノ赤壁也元豊五年壬戌東坡四十七歳ニテ黄州ニ在リ其年ノ七月既望ニ赤壁ニ遊テ赤壁賦ヲ作ル又同十月望ニ赤壁ニ遊テ後賦ヲ作ル又同十二月十九ハ坡ノ生日也此日

赤壁ニ遊ト施宿年譜傳藻ヵ紀年錄等ニアリ
然ハ元豐五年壬戌一年ノ中三回赤壁ノ遊ヲナス
賦ハ七月ト十月トニ兩度作ル也東坡文集又紀年
錄ニハ前ノ字ナシ後人混板ノ時加之ヵ
今年享和二年壬戌ニ当ル予井上玖子瓊鈴木文程
人書材宮北重男俗子軒堤子毎ニ浮ル而
川ヲ行ク行ヲ賦ス兒玉博空ニ浮ル庸行堂ニ又詩ヲ
携テ舟ヲ三又ノ所ニ遊ヒ弓北ノ詩ヲ
ヲ遊ヒ行堂遊三又記ヲ作テ行事景ヲ

訂ス山上 桐原学士鈴木茶白藤ヲ
毎ニ四ツ十月ノ中ニ戸約ス戸風俗ヲ約ス遊
ヲ浮ル行書鈴木白藤治木猶人山ヲ文習ヲ義方伯教
ヲ遊ヒ舟ヲ聯句セリ 十月下旬遊ヲ書好泉屋
庭二ヲ此ヲ又ハ行ヲ十二月十九ノ詩ヲ訂ス
詩作ハ此ヲトシテ再遊ヲ又予系ヲ古文堂
抄一ハ見 評註據 大抵ヲ注ヲ
異ハ此ハ書ヲ此ハ書ヲ

○壬戌十一月廿日神戸侯 本多伊豫守 席上ニ書画ヲ

神戸侯翌年

癸亥正月廿二日永逝此舍為千古可憐

[illegible]侯八特[illegible]侯滕忠統の孫なり

醉翁亭記一卷 東坡書

元豐四年五月寫於金山寺中

眉山蘇軾

文中子 鼎香而酒例なり又廬陵歐陽脩也なり

閒情賦一帖 襄陽米芾之章

紹聖元年甲戌十二月之望書于古梅花下

上林賦圖一卷 趙仲穆

此老為上林圖趙仲穆所繪者傳之至今真

為世寶余閲之不勝感愛聊復數語 拔山允明

又 東海徐憲 彭年 跋なり

秋興詩 祝允明 杜詩八首の二首と千宗山郭より下七首となり

一卷

正德二年好古圖徵仲子君復約觀楓林等山

絶頂漫録保傳舍所以遺興云矣 祝允明

董其昌七絶詩一卷

養蚕圖一卷 梁楷画

又一卷あり無圖

呉中仇英実父畫人物冠子酒瓶設色蒼潤

[illegible]可超出宋元上乎尤愛此卷[illegible]之摹寫
二十四矣紙本景氣宛然逼真非胸中有化
工之妙者孰能作此哉賞鑒者勿以人而忽
諸

萬曆四年八月 龍子花惟善跋

又邵郭馬琰湯[illegible]跋[illegible]の三字[illegible]又録[illegible]
者乃人之本聖賢曷敢輕拔因一展覽迸思感
神明同郡劉宋周觀于雪蘭齋敬記

嘉靖三十五年 [illegible]敬觀于馬君[illegible]雪蘭[illegible]

刘[illegible]者[illegible]

雪舟画一卷 狩野山水 古信写 大幅

文明十八年 [illegible]平日天童[illegible]牙一斧雪舟[illegible]揚
六十五七[illegible]筆[illegible] 宗川狩古信写[illegible]

同画一卷 小幅山水 古信門人写

此一卷仿雪舟所画予意[illegible]妙[illegible]
卧遊遠通世言此卷称小軸其大長門侯所藏
予嘗使狩古信模今復覚此卷愈知山水之妙
[illegible]比肩者使古信門人摸尚所不及[illegible]加墨[illegible]為殆

5 其志別否

曾我蛇足山水二掛幅　緒方香樵雜画小屏一双

勝印 蘭 忠院 二印あり

但来七律五首一巻

平岡 忠亮 物印 長所 二印あり

奉次
藤州藤侯贈韓客瑞韵五首　芝蘭

但来東壁函郵　書畫岡伯錫仲錫山井鼎等送西畫

侯話一巻　太宰純拝草あり　芝兵非と著さるの訳なり　拝草なりと兵非と誤りなり　函郵書和韓と対くるなり

南郵詩及書牘二十八葉雜帖屏風一雙

此外書画等可勝計　東山殿香具写　若木に金箔にて千鳥ヲ　一説に大沢下野守　焼川大和守　大久保主税　越後藩岡村八十八　会津屋一柳彩三郎　備前藩森助九郎

尾藩延田太郎等

五月日神戸侯宴集　覃

霞閣晴日會良辰滿壁圖書席上珍　侍猗蘭臺上

宴回思護葉社中人

○室町の称号

高氏　所示高倉三条坊門　義詮　御所高倉三条坊門

義満　御所ハ今ノ三条坊門後室町今出川ニ御所アリ永和元

年四月移徙シ給フ此所ニ花多ク植ラル依テ室町殿ト

花ノ御所ト申セリ又北山ニ別荘アリシ故ニ北山殿ト申セリ

義政　御所室町今出川後ニ烏丸ヘ移給フ故烏丸殿ト申
七ツ〻し将軍家倦ニ成給ヒ故ニ後ニ召其才浄土寺
門主義尋中興　長髮故名義視号今出川
義尚　御所一条南小川之殿所信テ小川之御所ト申し
義植　御所一条南小川殿所　義澄　門跡　義晴　右同
義輝　御所室町中御門武衛所
○武家大中納言束帯之時螺鈿之劔用ル事正式哉事
鎌倉京都将軍家比用ラレし考證ハ康暦元年七月廿五日
義満公大将拜賀沉地螺鈿劔ヲ用ヒラル

永享二年七月廿五日義教公大将拜賀ニ此劔ヲ用ヒラル
康正三年七月廿五日義政公大将拜賀ニ此劔ヲ用ヒラル　以上四三条実隆卿
此ヲ武家ニテ大納言ノ用ヒラレし例ナルニヤ鎌倉将軍家ニハ
此劔ヲ用ヒラレし事見ヘサル欲スヘテ武家ニ用ヒラル、紫革ノ劔ハ
野劔鎌倉京都将軍家ノ比野劔ヲ用ヒラレし考證ハ
建久元年十二月右大将家御直衣始野劔紫革束　東鑑
康暦二年正月廿日義満公直衣始蒔繪螺鈿野劔ヲ用ル
永享二年十一月九日義教公直衣始此劔ヲ用ラル
康正三年正月廿五日義政公直衣始此劔ヲ用ヒラル

文明十九年正月廿五日義尚公直衣始此劔ノ用ヒラル以上西三条家記

野劔平鞘ナリノ用ヒラレシ事ハ直衣始ニモカギラヌ事ニヤ寛正四年

十一月二日義政公等持寺ハ講ノ時永世朝臣平鞘ノ御劔ノ

持タレシヨシ見エタリ西三条家記 義稙公ヽ此ハキトシタル時ニモ平鞘

ノ劔ノ用ヒラレシヤ御ヒラサヤト申テ御紫束ノ時モタセラレ候

御劔一段結構ナル金作ニテ御座候ヒルサレス候ニヽ大永八年伊勢貞頼カ記セシ條ヽ

別書此文ニヨレハ平鞘ノ劔ニ結構ト云ヘルナレハ螺鈿ノ劔ナトハ用ヒ

ラレシハ文治四年正月廿七日月輪兼実公春日ノ社ヘ参詣ニ用ヒ

ラレ後京極良経公同日用ヒラル此等ノ例ヨリ候ヘハ武家ノ大

中納言ニ任セラレシハ螺鈿ノ劔用ヒラレシ勘例ヲ考ヘ於可有御

考訂候穴賢穴 己七月 伊勢貞春

○虎豹制禁

續日本紀元明天皇霊亀元年九月己卯詔禁文武百

寮六位以下用虎豹罷皮金銀鈴鞍具并横刀帯端ニヽ

延喜弾正臺式云凡五位以上聴用虎皮但豹皮者参議

以上及非参議三位聴ヽ自餘不在聴限ニヽ

建武年間記云建武元年五月七日南朝制武者所輩可存知

條々唐皮豹虎事ヲ尾鞘切付等細ヽ不可用ニヽ

如此制ノ所見アリ延喜ノ例ニ據レハ奏請以上豹五位以上虎
ニテ候霊龜ノ詔ニ據レハ豹虎五位以上ハスベテ用ユルヤウニ同上候
建武ノ制ニヨリテハシヤスク用ユマシキガ為ニカク制シ武家ニテ定メ
ラレシナル欤トアレカクアレ豹皮シ上品ト定次ニ虎ト定メラレ尻鞘
ノ皮ハ豹皮ニ定メラルヽ方ヲ然ルヽ御産候事鎌倉以来軍物語
合戦ノ繪図ヲミハ此定ハナキ事ナルヘケレヒ上古ニ其制アレハ
豹虎ト上品ニ定メラルヽ事然ルヘキ欤究賢　寛政九年己巳七月九日　伊勢貞春

○尻鞘事

一鞘巻太刀尻鞘ヲ示事

鞘巻太刀ト申ハ糸巻ノ太刀ナルヘシ糸巻太刀ニ尻鞘ヲカケ
勘例ヲトヽモシ糸巻太刀ニシリサヤカケシ画ヲモアルニヤ故実
ナラヌ事ナルヘシ

○兵庫鎖ノ長覆輪ノ太刀ト申ハ柄鮫或ハ織地ヲカケフク
リシモカケ鞘ハ金銀等ノ薄金ニテ両面共ニ包ニ同シク長フ
クリシカケ帯取ハ兵庫鎖ニテハフクリシモ峯刀ニカケル
地板ニ并フクリシモケカリアルヘシ。尾州尉聞宮ノ御兵庫
鎖長覆輪太刀。熱田社神宝兵庫鎖長覆輪太刀。鶴岡
八幡宮ノ御兵庫鎖長覆輪太刀。鞍馬寺ノ義経兵庫

浮毛後掛太刀等皆此製ニテ

○兵庫鎖ノ丸鞘太刀ト申ハ柄鞘共ニ金沼ナトノ蒔金ニテ包ミ柄サヤ共ニ同シク霧掛シカケ帯取ハ兵庫鎖ニテ柄サヤ共ニテホリアルヘシ。鶴岡八幡宮所蔵兵庫鎖丸鞘太刀。鞍馬寺所蔵――――。三嶋社所蔵上杉憲忠――。等皆此製ナリ

一兵庫鎖太刀ハ尻鞘ツカヘヲ定例ナレハ太平記ニ兵庫鎖ノ丸鞘ノ太刀ニ尻サヤヲケシテ見エタリ主ノ好ニヨルヘシ

一怨物（分モノ）作（偽物）太刀ト申ハ太刀ノ躰イカメシク作リシルシヲ云ヘルナリ柄鞘共ニ板金共フクリシカケ柄モ甲金常ノ太刀ヨリモ大キク作リ其餘ノ金具モ尋常ヨリハイカメシク作リテ兵庫鎖ノ七分ヲ一二ノ足ニテ十四分ツクルナリ虎豹熊ノ革ノ皮鞘ヲカクルナリ此太刀ニカキリテ尻鞘ヲスヘテカクル定例ナルニヤ。鶴岡八幡宮所蔵頼朝ノ名ヲ作ノ太刀モ此製ノ如クニテシリサヤヲカケクナリモ尋常ノ兵庫鎖ヨリハ数多キ躰ナルニヤサレハ大将ノ用ユヘキ太刀ナリ

平治物語ニ左馬頭義朝イカモノ作リノ太刀ヲ帯セラレシ浮正盛衰記ニ木曽義仲モ帯セラル是多田大将ノ用ヒラレシ所ナルニヤ

鶴岡八幡宮ニ一ツノ赤鞘ツイカモノ作リノ太刀ヲ一本ニ兵庫鎖太刀トヤリ是ハ其ノ形似タレハ名称ヲ誤レルナルヘシ

○并小刀小柄等三所ノ古ヘヨリカクレナキ事

一笄小刀共ニ指支笄小刀目貫ニ示ス物ハ見ヘシ
言ニハ不見ニヤ小刀笄ヲ指タモ古ヨリアリシタナルベシ三ニ義家
朝臣海老鞘ノ図ニハ笄小刀共ニアリ多ク閑書 大永八年之記 曰ク腰物
目貫九之内ツブ桐焼付ケ笄ニヤクドウ耳焼付ケ赤櫛左右ニ御目貫
ノ如ク少ク桐ヲ焼付ケ桐ハウアリ御笄ノ先ヲ二三寸ニ金ニテ
ソキツギニ継ク〻ル小刀柄ノ沈アリ 是笄小柄共ニアリ目貫笄ハ桐ヲ付ケ小刀ニハ桐ヲ沈ケナシ 此比ニ示物
相ヲ云ヘルヲラバ小刀ニモ桐ヲ紋ニ付ケ桐ノ沈ケナリ金ト斗リアルヲ
以テ見レバ秋茶付代ニハ笄目貫ヲ揃ヘ小刀ハ無キトヲル説モ其コトハリ
ナキニシモアラヌニ小前ニモ云如ク古ヘ書ニ三示物杯トモ記ス見ル

一笄ハ指支大和国吉野郡堀東兵衛所義後醍醐帝
御腰刀ノ図ニ表ニヒツナリシテ裏ニノミヒツアリテ笄ヲ
サシタリ箱根権現所義曽我ノ時宗腰刀ノ図モ指裏ニノミ
ヒツアリ是ハ笄サシ可申ニ小刀サシニハアラザルベキカ凡小刀
ヲ斗リ為ル故義ナルニヤ永仁布衣記ニ曰刀ハ鞘巻下ケ緒ハ
蒔金下緒ナリ笄同蒔金次ニ扇常ノゴトシ〻此ク笄ノ事
ヲ入テ小刀御沈ハナキニ小又人ノ好ニヨリテ小刀ヲ差ニナルベシ
共ニ古ヨリアリシ事ナルニ小

鞍ノ由木ト称シ小ノ変

一居木又由木此ノ和イキトヲ或ハユキトヲ井トユト通音ナリ和名抄ニ壹岐島ニ由岐ト訓ノ付タリ同例ナルヤ大坪道稈鞍鐙之記道稈ハ康永元年ノ比ノ人

鞍鐙ノ記ニ曰居木ノコト何ニ木ニテ作ルトモヲクリノ木コノ木又ノナキ木ニテコトニ悪ヲサリ悦シ一ストヲ名木ナリサハクリノ木又ハハゼノ木ニテ作ルヲ小芝系統名ハ持長ハ永享ノ比ノ人ノ弓矢名所ノ記ニハ由木トアリ伊勢ノ守貞順天文永禄ノ比ノ人ノ弓馬故実ニハ居木共由木トモ見ヘタリ前ニ如ク五音相通スレバイキトモユギトモ称ルナルベシ

右之問答ハ河角ノ家田貞之ヲ問モノ伊勢貞春

先生ノ答ヘ 当寛政九巳年七月廿九日 佐安殿ノ稈道ノ問之答 雲州佐安ハ尾藩ノ臣ナリ此ニ河角トヲハ尾侯ノ御用ナリ

一逆鞦韆ノ事白毛皮ヲ色ヒロメル宝ハ十ヤ十ヤノ結ヒ皮

稽ノ皮ヲ毛ヲ色ヒロメル宝ハ住吉源慶忍ヲ多シ慶忍住吉

社人ノ家ニ建仁元久ノ比ノ久シ小芝垣ト云ヒ物ノ逆鞦韆

ヲ夏ヒ新ヒ毛ノ皮ヲ色ヒロメル物ヲ逆ヒ鞦韆ヲ

惟久文永ノ比ノ画工ガ画ヒ侍ヒ武者貞

ヲヒ鞦韆ヲ皮ヲ毛ヲ皮ヲ色ヒロメル物ヲ逆ヒ義経記ニ云

忠信吉野山合戦ノ条ニ

義経ノ家ノ人ヲ中ノ法師ノ

義経ノ家ノ人ヲ中ノ法師ノ

中男

[illegible]

一藤之文結[illegible]を組結[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右 [illegible] 上ハ[illegible]調[illegible]墨[illegible]

[illegible]

右屋藩[illegible]

壬戌冬至日

○田尻系図ノ中ニ

今早田尻三方往[illegible]

薩摩国麻児島郡鹿内指分之内

右依崇古今義[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相模守[illegible]

右十一月廿八日井上了後来示

陸奥国平泉

○肥後熊本細川家臣志賀太郎介所蔵古文書三巻二百七十通の内

[illegible]大友氏[illegible]

蒙古人用心書 [illegible]志賀右帝了後筆仕

[illegible]

文永十二年

十二月

不出[illegible]

右先年屋代氏[illegible]文永二年の作詞を蒙古[illegible]

[illegible]後竹崎季長[illegible]

信宣

○西行門[illegible]

[illegible]の亞相[illegible]

あり又仏者なども学びにまで仏舎利一粒ありとてさまざま

ありがたく思ひを起すなれど一粒のもあり手に入ることは甚だまれ

佛舎利の事経の中にありて御めぐみありと述べ給へるなども多かり

凡人の尊ぶ法は仏の教への事を守りて学ぶべきを

忘れて申すべし男女の姿のみに仏舎利

の方を専らにし学ぶをせず事を行ひありしはことさら

に治めしとあり　右中河孝亨の漢金和傳に見えたり　新編漢金志と云の書に　漢金和語は万治二年の板也

○王代には都に大学寮あり又勧学院淳和院奨学

院弘文院など氏々の学校ありて上も下も学ありて京都

より段々と学びかたをもて出学のもと大学寮に入りても有

しなり足利の時は都にて学の絶たる有といひし備前

岡山野にも和気清丸の家にて学校あり学校

餘田地百町ありといへり

熊澤了介の孝経外傳或問に出

○友をえらぶは才中能なる者を友とすへしと才をもて中能なりと云り

同書

○近世は筆跡を家とする者生業とは下々に至るまで

先生と家の名をつけて弟子を制し弟子に又なにくれと

云ふ其唐の書は昔は皆自然にして今は師人

女子のあし白川をこえ[illegible]
[illegible]
[illegible]
古人の遠き虎岡に[illegible]
[illegible]　同書

○立花天皇之錦を九州に陣し十八年甲寅を
[illegible]山野を[illegible]
[illegible]
[illegible]武士の奥[illegible]　同書

○[illegible]
[illegible]
[illegible]
百年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かゝやかりていらせん近大納言公隠居楽水の手跡
せられしより以来さ出来ぬる事中納言となりし程
なりし事にて誠にてもかくも世にて幼少の人
にて長て上楽見しへ　同書

○市谷月桂寺ニ古墓あり
以上五条灰氏店經或問
待合他事あり

康永三年十二月廿九日
广永三子

至徳元十月十日

文明五年巳
道光禅门
妙道禅尼八月十五日

○於右京三軒家安養院書其下列記

厚サ三四分 一
径二寸青石也

暦應二年巳九月

右之碑以前ハ宮参る途中天明五年以来掘起して
さくのうちて九月九日祭りして安鎮經をあげて供養
尋常にて家名閑人あまた出来るにてかくしきものとありしが
進て其後方より参る人への碑其正月十時同六年

午正月廿九日
匹田儀安保存ニ出

○於手稲義丸 康秀 遠州敷智郡産目（ウブメ）中村源兵衛宅にて
出生のうち源兵衛より道中
遊ぶ
遊ばされ通り以後は

所酢[illegible]江[illegible]迎[illegible]家十間村八十八基[illegible]ん 同書ニ

○武州府中近邊古碑

○嘉暦二年丁卯六月廿六日 ○同野口村徳願寺古碑

○建武四年五月日 ○本宿村裏ニ弘長元不詳

○同称名寺ニテ掘出ス 塔碑 ○延文二年 不知 ○應永一四月

廿日 親氏 ○嘉暦二丁卯六月廿六日 同書

○四月 ○万代恵 弁千代書

右

神君 所[illegible]初ニ出[illegible]ニ万代恵と

三字大字ニ[illegible]府ニ二月二日末ニ弁千代書[illegible]三州

額田郡坂谷次見村百姓[illegible]十[illegible]中[illegible]八[illegible]

吉[illegible]町[illegible]ハ[illegible]石不[illegible]沢[illegible]

中石ニ術士ニ

東照宮御初年ニ[illegible]剣御[illegible]

神君[illegible]出[illegible]

[illegible]三[illegible]年正月[illegible]

[illegible]田町[illegible]十[illegible]後[illegible]文[illegible]八[illegible]

[illegible]五[illegible]所[illegible]町後田町[illegible]備[illegible] 同書

○謹念教師ゟ実教の代ゝと先代と書教師ゟ本を
中先代ゝゟ足利将軍の代の人のゝゟ云ふし　口書
○尾州長久寺住の後古義国ゝゟ本ゟ出し淳九ゝゟ
三ゟ所持ゟ本中ゟ素焼の香炉ゟ洪炮十五日ゟの弾
九ゝ漆戸焼の土のごゝ　口書
○尾州妙興寺住持太閤秀吉ゟ社家ゟ附ゟ紙下書
自筆訳
ゟ乃花れいゝゟの
ゟ乃ゟ

まへてやうん
せゝゟ泥　口書
○相州愛甲郡愛甲村愛甲三郎墓と云ふ上塔ゟ五尺余
西嶺山圓光寺仏殿の傍ゟあり正月廿五日辛いゟて
遠古悼ゟ大〻唱阿大庭士ゟあり石碑ゟ建久三年〻
大施主有信唱阿　口書
○武州峠郡当麻村ゟ河原大師九ゟと云石碑あり
其ゟ八行義ゟ山ゟ宗の系図ゟ云ふ中　口書
○奉墓〻花ゟ〻生ゟ進退花ゟゟゟじゟゟゟ
廿四

[illegible]

○由良孫三郎景長　長栄寺蔵古文書ニアリ　同書
観應三年之人

○　陽節　陰節

射礼閉書ニ出タリ　明應八年五月廿四奥書アリ

右匠田信濃[illegible]

○浄土宗諸寺の内白石紳書[illegible]

一紙寸六角半観音の[illegible]
祝[illegible]月輪[illegible]
[illegible]
女花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

善信房坊の塔下に住せし時玉日姫の膝にて居住ありて
ありて御子出来て近代に至り迄其跡の存する事
玉姫寺にてありし玉日姫尼の御像絵像ならひに今に伝ふ
尤も不審なし

一佛光寺の了源は（覚如は親鸞より四世）覚如ノ嫡子をも光玄存
覚にして諸宗兼学ゆへ一宗の規矩に違ふ事の有しに
是非の勘当をうけて興正寺に帰り京佛光寺
寺と申す興ノ上人也 但し此時ハ興正寺佛光寺と
号せし也 今ノ西本願寺の内なる興正寺ハ文明年中に

本願寺と分れて本号にかへりし也

一高龍山報恩寺ハ親鸞聖人第一の弟子性信房也 師に
随従して坂東の所々も修行有て供奉せし 此親鸞
日ノ移行に西に帰京して東方の教化延引に及ぶゆへ
これ事の為にて我宗を興隆せよと仰ありて弟子の肩にみ
後を頼みし也 此時に親鸞聖人の御真影を
与へ給ひし也 其所ハ四郡具の事也 又自作の木像
賜ひ佛舎利をもつて手つから入れ置しを珍しきの紺紙金
泥の正信偈一巻ありて今に伝へる 一性信本国下総に

かゝりて報恩寺を建立し上洛して西国巡の
度毎に師を迎て此時寺僧二十三人剃髪を乞
所座々の寺中の僧共を座主大夫にあて
ゝ新寺院の天神と報恩寺とを所々兵燹よりとく
ゝ焼亡す大唐より来る観音菩薩の尊像
し

相伝秘仏 此観音の御仏像の事

のゝ寺を建立して江戸寺院と称して豊時十七
ゝ此と称し其後出世と四ヶ所移り又八ヶ所移り

又帰京ゝ初代と称は三十石餘の朱印を賜て
今の報恩寺の所に寺を創立し報恩
寺と号ス

一山科の所々の寺院の大触頭極楽院に寺号
ゝ賜ゝと西ゝも親鸞聖人の弟子として
して荒ゝ

一越後高田の所も東西ゝ輪して三月廿五日の所々
抜ゝ ゝ芝ゝ東ゝ御堂建立のゝと所ゝ
西ゝ同ゝ所ゝ御堂に退

一東西弐十万石の極楽と称し殺生禁断の所なり一向宗を不編相絶して教化なし

一関東の七宗と云ふ所化宗の教者なし

中戸山常福寺（関東武州）　結城称名寺　下妻光明寺

三月会浅草福寺　鎌倉光明寺（即千甲州のうち光明寺）

万福寺　江戸浅草寺　増上寺　但二月十八日八寺　三月十六日分なり

一廿四輩と云ふ親鸞の門弟なり

右白石紳士より出　壬戌孝子廿六日

○当代文政元戊寅年　武州豊島郡岡田郡羽生村

墨子五拾年今五年たり　小平百姓あり墨の墓ハ門不法寺と云ふ寺の門内にあり墨の墓也

墨ハ理屋杉貞　正保四丁亥年八月十一日

助ハ　單到真入　慶長十七子年　四月十九日

墨ハ　榮蒼不生妙聲　享保十五戌年　五月三日

雲の所と云ふ　寛文十二子年　正月廿三日なり　と杉子氏

地蔵　雲くゝ　目黒祐天寺の縁起なり

○宇治ノ茶師上林竹庵　鳥井内茂方ゝ足廻トシテ

宇治より参りし所に敵押寄るにつき還り候へと旨に被申
候へば
家康公御目を掛らるる何とゝ御用に立申へきとて比類なき
働をして討死首ハ鈴木善八と申者捕之 慶長見聞記 伏見攻の事に
見えず
○六条本願寺門跡兄弟内府様へ為ゝ通屋敷をて
下向被成ゝ治ゝ内閣之使者を以早ゝ御上り可被
ノ由色々申秀吉公御出仕ゝ作ゝ本門跡准如上
人ハ是より上洛被成上方一味ゝ成ゝ合兄教如ハ大門跡

東本願寺

御前ノ子ニテ御座ナリ脇腹ニテゝ門跡ヲモ後給ハス
大門跡ノ位ハ漸々継ゝテ有モナキガコトクニテゝ
今度一度ニ御下向ゝ成ゝ一人関東ニテゝ
御下ゝ成御用等モ御座ゝ作上ゝ内府様
御酒ヲ上サレ今度御安泰ゝ門跡ニ御ハ之ゝ成ノ由
先々當分より東國并三河より東ハ皆ゝ此宗旨ノ寺ゝ
等此人ノ門徒ゝ御付東門跡申候ハ是也ゝハ自然
ノ事モ御座ゝハ一向一揆ヲ起シ御味方ヲ上トノ義也此
上人兄ナカラ弟ニ代ヲモタレ非道ノ様ニ被存ゝ果報有

テ不図ニ新門跡ヲ開基シテ両門流トナルヿ不易ヒ

同書ニ出

○傅潼東坡紀年錄云元豐五年壬戌 先生四十七歳

七月之比既望泛舟於赤壁之下作赤壁賦又懷古作念奴嬌

十月望歩自雪堂帰於臨皐二客從之過黄泥之坂復遊赤壁之下作赤壁後賦 十二月十九東坡生日也置酒赤壁磯下踞高峯俯鶴巢酒酣笛声起於江上客有郭吉二生頗知音調坡曰笛声有新意非俗工也使人問之則進士李委聞坡生日作新曲曰鶴南飛以獻呼之使前則青中紫裘腰篠而已既奏新曲又快作数弄嘹然有穿雲裂石之声坐客皆引満醉倒委求詩作一絶句王郎以詩見慶次其韻

△元豐五年壬戌の下ふ

五羊王宗櫻東坡年譜 △十二月十九日のゝを載るゝ〳〵古文抄より不乃施宿年譜ゝ考但王宗櫻の譜ゝ

仁宗皇帝景祐三年丙子先生生於是年十二月十九日乙卯時按先生送沈逵詩云嗟我与君皆丙子又有贈長蘆長老詩云与公同丙子三萬六千日又按王局

文云十二月十九日東坡生日置酒赤壁磯上
今年寛和二年壬戌十二月十九日
再び舟を墨水に浮べ月を待て同遊の者七人所謂
篠井廉行事 給木 茶白藤井上政 好慶 文猶人山内 謙
德甫中村亮 子寅 書肆 与七 子孝
豈歳壬戌七月既望、与諸子泛舟墨水、飲於蘇公赤壁
之遊也、十月之望者疾不果、若夫諸子則後遊之矣、

杏園主人

赤壁賦といふ
ものを笑ひ
興じき

按蘇公年譜、及紀年錄、十二月十九為生日、置酒赤
壁、然則壬戌三遊赤壁、而前後二賦、膾炙人口、生日
之遊、人不或記、蓋以多其文也、是日陰雪新霽、天氣
肅然、乃与井子 猟鱸 猶人 二生、昏暮敲竹堂 篠子廉 門主
人欣然相迎、酒二三行、豪氣十倍、又促山 德甫 村 文智 二
子、訪白藤 鈴子德 書齋、相携而出、道遥逍遥、書肆 与會
牛門市、買舟、復遊於墨水之上、斯遊也、不期而得友七
人、不亦奇乎、因不自量、作為斯文、題以後：赤壁記、且不
曰賦而曰記者、自謙云尓、其辭曰、乘墨水之長流、擬赤壁

之日遊堤挈芝蘭之交容與竹葉之舟迴茗溪下柳堤出曲岸望東西兩國之橋宛如虹蜺霜氣滿天北風凄其積陰蒼茫不可端倪時乃萬物閉塞群動滅息流光湜〻水波如織寒月揚色玉缺石泐裂三泒之素練啓九重之淵默皎兮如氷雪之逼卓乎如斷山之巖恍焉惚焉如神仙之不可測也客山德甫有操絲桐者新得古琴沈思而高吟嚮冷絃調山虛水深峩〻之德洋〻之音得之敏手而應於閑心漸近自然餘音悄〻於是合尊促坐獻酬交錯放肆大川談笑嘔酬不知舟楫之載形骸邪抑形骸之載

磥魄邪蘇公逝矣天地非昨至今七百二十甲子孰知有今夕者上下千年唯有孤鶴

蕉帳中香　巻五

子瞻詩句如一世乃之敏庭堅体蓋退之戲效孟郊樊宝師之比〻〻詩赤壁風月笛句注漁隱叢話後集二十六東坡之元豐五年十二月十九日東坡生日也置酒赤壁磯下踞高峯俯鶴巢酒酣笛声起於江上家有古郭二生頗

知音清坡曰笛声者新意非俗工也使人問之
則進士李委別坡出作新曲曰鶴南飛〻歟呼
之使前則青巾紫袍腰笛而已既奏新曲又
快作数弄嘯拍有穿雲裂石之声坐客皆引
觴醉倒委袖出嘉紙一幅曰吾參求於公得
一絶句足矣坡笑而從之詩云
山頭孤鶴向南飛載我南遊到九疑
下界何人也吹笛可憐時復犯龜茲
苕溪漁隱曰西清詩話云金書觀唐人西域

記言龜茲國王与臣庶知樂者於大山間聽風
吹声均音節音後數入中國西伊州涼州甘
州皆龜茲至也〻
仙溪傳藻所編東坡紀年録云〻〻〇暑
某謂漁隱叢話并仙溪紀年録所載元豐
五年壬戌東坡遊赤壁盡三度也其
第一則七月十五前赤壁也其第二則十月十
五後赤壁也其第三則十二月十九日為吹笛李委
作詩之時也〻〻下畧

文化三年丙寅七月之望
南畝子書於敷春亭下

○寛文元壬年六月十二日吉祥寺明地三千両四十両
此節芭蕉翁行脚して下野の国元千さ橋より下野にて
中路戸中にて信田村なる京の方へ往波の斎藤戸杉平
まつり酒井侍従大成田氏也　大名の従者ら
涼しさにこく也んやいふたもたうた大三ヶ十人
もう行山おちんなさこたる宿もうてんもう也
中山飛人の方衆と芸路人ニ首大人六月相に出合へ
まつりし也
右其日記ニ出　芭蕉翁の作なりしと云

△学子
林宗庇

○三韓詩龜鑑巻三　杜翁崔瀣批点　石洞趙云仡精選

庚寅之九　尚右金莘尹

輦下干戈起殺人如乱麻之居不可見白酒泛黄花

批翁曰見之不覺墮涙

從吳通守借覓酒借樽貯山泉寄來見錢△

有客來於道書空欠一錢本求廬阜酒漫得惠山泉

虎伏林中石蛇盤壁上弦屠門猶大嚼何況對樽子

借者以美酒爲謝

茶店晝眠　上庠林椿

頹然臥榻便忘形午枕風來睡自醒夢裏此身多處
著乾坤 都是一書事

列子御風　平章李主報

浮來遊境尚遺功何必乘虛如自神若向風波尋
槳楫滿世能多知真人

五夜　司諫陳華

五夜知風雨要醉和殘夏度晨雞宗僮多報
南溪漲半沒荷花到石階

芝武　司成白文[illegible]

百戰車中攝六經八珍案上憶蓴羹吾鄉渺望
丹青湿七里灘頭訪釣星

感波濤　密直郭預

扶桑〻海遠不極茫里蒼〻接天色有夷生寄
海中央水道迷通變雜測聖明本自置度外邉
將貪功謀欲得受命東征自往年東南師期在
六月千艘駕浪會一岐日本島名十丈風帆檣欲折相
望海夏不交鋒幸苦何須為君說炎氣瘴霧
熏著人滿海浮屍寃氣結中舒虧盈涼為生

九月已當三十日是時八極顛風来擊碎蒙衝何大
疾蒼皇誰借千金壺柱教壯士探蛟宮哀哉十萬
江南人攀依絶嶺赤身立如今恨骨与山高永抜
羈魂向天泣當時將帥若生還合此能令增誓愧
壯哉万古烏江上耻後東坡棄功業

三韓詩龜鑑 三卷 嘉靖丙寅冬順天府重刊
元祿十一年 皇朝書肆桐華堂中村五兵衛刊行

元祿丙子鈴秋峰散人 長頼序之所引朝鮮文籍
東文選 東文粹 牧隱集 圃隱集 醒狂 莊存稿
訥齋集 晉山世稿 三峰集 濡溪集 十省堂集

破閑集 補閑集 東人詩話 皆詮子氏書也 ありくいり 王朱恭茂合

○桂女ト云ハ山城國葛野郡桂ノ里ニ居住スル民婦
ナリ此モノ上古ヨリ宗系連綿シテ世ニ婦女ニテ流
ヲ立今其族見ニ宗口 かなし 又紀伊郡上鳥羽村ニ一宗口
アリ假令桂ノ里ニ居スルヲ以テ桂女ト稱ス彼等ハ
自ラ桂姫ト稱スルニヨツテ他ヨリモ又桂女ト稱スルハ
偽稱ナリ桂女ト云ヘドモ然ニテ上京ノ村桂女ハ御霊
ノ方御孫ヨリテ大坂ノ陣ノ時桂ハ軍ニ勝ノ詮名
ナリトテ則ち兜髮ノ吹筆ニテ召出家宝安

神功皇后三韓御征伐ノ御時之祖桂女御陣上髷ニ
ゆひ付る時御代ノ代ニ成上タル御陣帽ヲ
神君様ヘ戴カセ奉リケルニ大坂御陣ニ利運ヨリシテ
御続代ゴトニ江府ヘ参上ス拜謁ヲシテ西位相等
カ之ハ細見ハ大澤ノ社家藤原基季卿ノ筆
ヲ由緒の学写ト云巻ニ委シ 正月廿三日
○小須加信之学書ニ冊ノ全田ヲ領シ七国無高ノ文
文永八年国司ヨリ寺院ニ又家康方ニ於テ丹波
福地山小社牛頭天王ノ方名

押紙 此ノ外ニ多ク大事、物ノ古今ノ伝授ヲ公家
八條殿ヨリ聞ト伝授シ其中ノ伝也ヲ
和侯ヲ取ル下地ヲ小社牛頭天王ノ社家ニ
ヲ文八中世ヤ宮ノ国神ヲ方ニ八長ノ
方ノ国ニ吉田ヘ引渡シ
学問此條世ニ宮ノ伝授ヲ
此量ヲ勅ヲ宮殿ヲ小須加氏義信之
八十一年ヲ云ヲ 正月廿四ヶ

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

癸亥元旦

林祭酒 名衡 字述叟

忠一字君

國衣冠朝大塔元正石會仰昇平竟天舞

日生民樂十兩五風西物亨

○梨牛茂睡茶光 父の実名を用 戸田茂睡

藤の食家元五千石を後大関伊豫守、四位あり

源を豎物忠六男まく寛永三戌年四月十四日病死

但豎物ハ戸田氏忠勝の二男 源を豎十七歳 小笠原文書 正月廿八

○ 兩中宵 大学氏林衡

[illegible]

江戸正月

[illegible]

雨中宴

雨とともにうつろふ色をあはれとやおもふらん　寄雨恋　夕光

○相模守平の源定信朝臣

[illegible]

又橘法橋隆円源貞臣朝臣　六月雨

山のこしにうつる雲あり　[illegible]

[illegible]

二月の[illegible]

三月十七日三夏記

○本草和名　深江輔仁

署預　和名世末部以毛　人参　[illegible]　一名久末乃以

薏苡子　和名都之太末　龍膽　和名衣世美久佐一名余加大末

景天　和名伊岐久佐　乾薑　和名久礼乃波之加美

狗脊　和名於乎和良比一名以奴[illegible]

蠶実一名劇草　[illegible]　和名加岐都波太

欵冬　和名世末布[illegible]岐一名於保波

牡丹　和名布加美久佐一名也末多知波奈

悪実一名牛蒡　和名伊須一名宇末布ゝ岐

昆布　和名比呂女一名衣比須女　桔梗　和名阿利乃比布岐 一名乎加止ゝ岐

茯苓　和名末都保止　石南草一名鬼目　和名止比良乃岐

蜀椒　和名布佐波之加美　溲疏一名巨骨一名楊櫨 一名牡荊一名空疏 和名宇都岐

雉肉　和名岐之　越瓜　和名都乃宇利

胡瓜　和名加良宇利　大豆黄巻　陶公景注曰以大豆為蘖牙生便

乾之名也　和名末女乃毛也之

○享和三のとし 癸亥 閏正月のはしめ執政乃きく

のつかさの子みかの席にて梅のかをよむ

侍従氏徵朝臣　戸田采女正

匂ふなる梅の花さへ何事て うつりかはらぬ春の色そふ

侍従忠精朝臣　牧野備前守

よろつよと契りて咲もそふなる 世の栄えいはふ[illegible]

少府正敦朝臣　堀田摂津守

君か代のはるをいはふる春のいろ こゝろもすみて咲みたれ

咲みたれさくもせすに咲まさる 詞の花の色つくりしく

あらたまの人の心の春やはるなく鶯の声きく
うくひす花にや春はこのもとをさへいかなる鶯の声かく
信淳 信明朝臣 松平伊豆守
為春も人のこゝろの花とてもまつやこゝろうくひすの
もろ人の心も君が代の声とこゝろよく鶯の声
孟卿
君が代の春をしるとや思ふらん鶯の声
うくひすを以僅なき人のこゝろの花をさかせけるかな
忠雄

七十年の世のまつみて住よき梅かえにうくひすの声
うくひすもいかなる花の春をや春の御よに声句かし
弘賢 屋代太郎
聞く人の心ありて鶯もなく声を千里とあり
治まれる御代のめぐみに人皆きくもの鶯の声

○きのふ上の由緒
正保四年丁亥仲春吉辰ノ板ナリ
一ひとつく公方様中将殿御くじの御出のゆへ始
おほかたきりぬへし千年の梅かえんのをひしとめきて

[illegible]

[illegible]

一ちやうにんまちのあるいまいりくをんなたちが
きくまつのとりがいまあるあるうへなどてあるる
のたちまちとしまつりまつりこのみ市川
びぜんのうつし

[illegible]

一ねぐのうたがたちまちとうのかるいせんかたち
りもまいりまいりまいりまいりまいりまいりまいりまいり

[illegible]

一ぜんまつちやゆきをしらんじるぐ
[illegible]
一ぜんらくみてちんごてちやうらんちんのつよごいせん
こすえぼうとうとれ
[illegible]
一あるとゆきふるれをしらせ人とをてへいけ

さてさは枝子のとおしわが當流は
さてさほりおふごと人のさし付ほとらさてさらさまし妙を
一山しらずしさ[illegible]らずげごく此事ありかされりふれ子し
あるとろとやらしとらずさせのことごまんあるとよ中[illegible]
ほりそてりききく見ひとびきくるぐてそうさまにつ
さらの四[illegible]通[illegible]
かぶりくさぶ男んあらぶ上が二のけされいうくこそ らせにこそぐ
一びぜんのらふんざに乃ふしまかにめ二じとづくみ和るびく手
宗ありとかちら二[illegible]の字と上けある[illegible]子あるのりと
[illegible]まてう[illegible]文あうみぶしきくしくら上ちあり[illegible]
びもりふさいあ[illegible]くまつまてさいしきのしたとて[illegible]
さん[illegible]
二[illegible]てさも今は六じにありよろりぶしと手じよりきでと[illegible]
一かし乃もちのたあつ[illegible]が山ととさしのでそうしたとて下乃
[illegible]あいてやしあるものとままて[illegible]七[illegible]ほと
[illegible]はりとびけずい下とれい[illegible]べきいよしくと女んがい[illegible]枝手
してよ[illegible]きて[illegible]りあれ中やしあわくもきつらく[illegible]二れを
人のかれしくひきん中くうしのふあつしてさてあるみ

[illegible]

[illegible]

○林家詩

春暮同近藤孟卿遊荒蘭埼木原氏莊得斷句

十首　　林桑酒 衡

公暇優倫一日閑、遨遊聊得脫塵寰、相山呈碧房洋紫、心在雲帆出沒間

鈴林缺處海天開、驛路一條紫水隈、寸馬豆人真画本、白雲綠樹又詩材、

輕陰天氣正撩人、稀綠耄紅斷送春、一醉思眠、不思、滿原芳草亦堪茵、

國風嘗咏蘭埼名、形勝即今旁訂評、坐看滄桑千載變、馮臨懷古若為情 萬葉集歌咏荒蘭埼山路、併及豆島、今距海數百歩、眺望、皆為昔年之海、山路已廢、海濱闢路、所謂豆島、未詳何處、

南塢喬松排紫霞、四人合抱尚餘些、古風絶響無人繼、唯有春禽來啄花 古歌注、詠磯馴松、而二十年前其松槁矣、園之南塢、俗稱愛宕山、有一古松、寔為衆樹冠、土人以此充磯馴松云 之樹

曾閑　大駕年〻度、時使秋鷹擊狡兎、松下高岡聲
折迭、村童猶記旌旗駐、此莊為先朝遊獵之地、駐
駕之處、今亦少年一年上呼
之
滿山蓬草各飛香、〻氣和風襲袂裳、境遂自生塵外
想、更疑身且入仙鄉、多產蓬草、好事者時來採劉
鏡池蓴菜滑于酥、采〻亭端罟碧鱗、主人預令前邨
蹬打得鮮鱗充晚厨、鏡池乃園中池名、產蓴最美、主人饋前海魚、新鮮亦異常味
僮僕提携酒榼隨、夜来風雨始佳期、唯嗟吟境吟侍
少、故倩林鶯和我詩、此遊約劉淳風、前日雨、雖晚霽、淳風遂不來、

松檜重〻障晚曦、桃雲禅利倚山陸、測范往事憑誰
問、手剔蒼苔読古碑、有寺曰桃雲、木原氏先世在焉墓道碑、乃我舅峯翁撰文
○秦漢瓦圖記　乾隆己卯仲秋排山老人朱枫乃等
不〻〻秦漢の古瓦と瓦磚と獲刻〻〻拓り考〻所
〻〻のし藤叔義ゝ古瓦譜のごとく　石池文庫　石氏印
所記し
○法州大乘寺蓮会　連枝とものし水の月
とも書き〻〻ひのもとに咲かく連れ
ひとつの色し大乘ゝ所ゝて年年おのの身　春文今年本

○佐渡のものゝ書

佐州風土記 七冊　佐渡志 一冊　佐渡事略 二冊 [illegible]

○小曲

文鮮花

好一朶鮮花有朝的一日落在我家
我本待不出門堂又恐怕鮮花而下又
好一朶茉莉花滿園的花開賽
不過了他我欲要摘一枝戴又恐怕看花人罵又

八月裡桂花香九月裡菊花黃勾的我生跳過
粉墻好一個崔寶來忙把門關上又
哀告小紅娘哀告小紅娘可憐的小生跪着半夜
你着是不開門來我就跪到東方亮又

[illegible]

○林氏美人所見詩也[illegible]香月牛山[illegible]
通家三世秀才茅沈[illegible]
盤出和知書[illegible]屋　牛山[illegible]

○宇[illegible]

二月朔之出来致拝見候、山陽新正為元会以来参候
以後年頭書状、部屋之事致候、然ハ為祝用ニ
也、御契約中、以後書並奥七日以後御頼可申述候
以前ハ御深恐悦之名医編集味、実ニ御頼申
書籍清書之事、先生御頼仕置候へ共、子細ニ
事済申候、尤去年於歳末傳譯、以後才子帳之
元来痔疾并為上、当春又去年以来癒ぬ氣肩
背胸脇腰股之邊拳動之趣如何相成申候
秋後ゟ年々御快、尤之鏡も是迄ニ候、又当年ニ至り療治仕候

以書簡難盡候、只今ハ申遺候、論語等尚可被仰付候、
除之久之養生汲々、除菓之善語性以論孟之事上段
秋冷之節、御自愛専一奉存候、恐惶謹言

八月十日　宮世三郎
参
拝

山鹿頤菴様
玉床

○貝原益軒先生

久之御面談不申候、西洞院鍋島殿へ、江戸屋敷
先生之御書付、今日返し、甘書拝受仕、御礼申し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

謹奉賀

但来先生五十

東方有

佳人宰弥牛門農偉彩人間不[illegible]

常流族千秋知余年之[illegible]

門下多豪英衣冠畫屏顧余

金丘容豆圖侍　羊酌[illegible]以庭

花裏白眉寿雲繞奉

高盃五彩映醴酪吐香言鶴乘碧
海香仙室恍惚天香惜昔登
瑤閣翩〻侍
講年踏行望賞詩
哲人世所仰望園有賦作百盃
美酒濃〻盃互酬酢坐秀半酣
酌放彩起望簷〻起分宴何窮
回首春塀日未高

西別雨顯允謹撰

○熊野字淇瞻号緒江俗称神代喜左衛門　清水人
[illegible]
廿八日ニ没ス　[illegible]
○江戸西久保大[illegible]
神[illegible]　小野[illegible]通の[illegible]
[illegible]屋家[illegible]園[illegible]幕[illegible]士[illegible]
内侍ニ通[illegible]園[illegible]
[illegible]
久保町[illegible]鋪の[illegible]市中の路次ニ桃灯

[illegible]

神君の御紋あり御厨子の内[illegible]あるを[illegible]市人[illegible]

上野[illegible]人[illegible]御像を東[illegible]此御像を東[illegible]

[illegible]下の方に猫犬[illegible]

[illegible]焼失[illegible]

[illegible]

殿俗に[illegible]の[illegible]男女の[illegible]此[illegible]

神君の御紋とあがめ[illegible]

本下川浄光寺　東[illegible]の御像を台徳院殿[illegible]

深川三十三間堂馬上甲冑の像を畫き猫[illegible]

[illegible]

深川[illegible]

文化元年甲子四月十七日[illegible]

[illegible]

同白坂[illegible]　本像東[illegible]の御像

上野の　御宮[illegible]

[illegible]

四月十八日記

○三経堂の写

[illegible]

[illegible]

○行業物　百十七　江岡氏親著　元禄の比の人

○[illegible]梅の[illegible]　[illegible]　[illegible]

真如　[illegible]僧　教首和上　[illegible]　教首和上の墓あり

[illegible]　[illegible]　忍海[illegible]

○題画梅

忍海上人

梅花雪裏元者[illegible]自[illegible]別[illegible]　[illegible]　[illegible]茅[illegible]可比

[illegible]

[illegible]

雲の[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

○模島　悦　孫八　加多侯臣　著述のこと

合類節用　北越[illegible]紀　五十七　近世[illegible]詩　八七

○三才図会云法明寺在摂州嵯峨日源上人有墨子
母神社有古松樹伝云稙正成関東下向時富士此所植
也　江戸名所之絵図に諸国より此寺をかたらう

○法華経を書て屋代氏弘賢の蔵てこれを写て
いとゝ信のうへ此四とせ沙弥よりあつまる
おくふかへやゝ社七とせ以前山入をこ
のまはりにさくらあり新に人をして
いとなむ秋の風ふかは春ならぬ色も今より
さらにさくらの山ふかくなるらん

もしらし花ちりて佛とゝ花の
ちるとはうらとゝのくに掃ちりゝ宮石のうへ苔山
ちつゝうてゝ木ちいとのつゝ生ゝる程よりこに
らはとゝあるいは入さうゝ山ふくとゝ
おくとゝ人達あるやゝくとゝ冬とゝうゝ花と
ちりのまゝ月しきとゝ山のまゝ
とゝうゝ入谷の月とゝ山とゝ
あゝ玉の手とゝ仏ちいとゝ南とゝ谷の所のつくしう
山ゝとゝ山とゝ人々ゝ山ゝとゝ山ゝとゝ

入佐山作 明暗艘ミ
四月廿四日晨去

〇清江日暉 江西水路志ニ贛乃下游萬壽洲其上有古成子廟、托於水、鐘沈水底、為舟行患、旧名成子洲、
按此日の所謂清洲の類なるべし

〇下学集ニ前栽 せんさい 前水 せんすい 前水ハ今の泉水のことなるべし泉水といふハあやまりなるべし

〇拾芥抄京程部ニ朱雀大路半廣十四丈 犬行五尺 溝弘四尺
犬行とハ今の犬走なるべし

享和 ナゴラン 地錦抄ニあり 八丈より来るにもあらじ

〇ナゴラン 享和三年亥四月八丈島より来る葉ハシモトの葉のごとく白き花さく香あり葉のごとし

〇浮田中納言秀家八丈島ヘ流罪の時宗福寺ニ住るよし其寺の後ニ自分植おきけるあり
ところしられていまもけぶりをさゝえんとするも山風
その冨士山ともいふ昔山焼ありしとぞ今も緑頃一九山あり
てありしよしその冨士手に秀家の墳墓の
古跡と見えて築きその中ニ桜の木を植おき
植し人の名碑もありて浮田一類とて血脈の者百姓と

[illegible]

○寺病[illegible]　秋田氏[illegible]の[illegible]千余[illegible]宝和二年[illegible]脇[illegible]毛[illegible]毛[illegible]の[illegible]

命[illegible]大醫[illegible]多紀氏の[illegible]毛瘤[illegible]石井氏の[illegible]

[illegible]

○茶釜　草[illegible]

上田[illegible]

宝和壬戌仲夏廿二日[illegible]

仲夏　竹醉日[illegible]

[illegible]

[illegible]

○子病[illegible]

秋田氏[illegible]

病[illegible]

[illegible]

金[illegible]大[illegible]氏の[illegible]

[illegible]

○[illegible]

上の[illegible]